

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
36

振興協議会だより

〔発行日〕平成31年4月26日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



雪散歩 ～大地と人が築いた眺め～(特定非営利活動法人Tap 江村大輔)



苗場山麓に住む私たちにとって冬になれば雪が降るということは「当たり前」のことになっています。津南町と栄村に降る雪は大自然がプレゼントしてくれた100%天然の雪です。しかし、雪の降らない地域や海外では、人工的につくった雪でスキー等を楽しんでいます。また、雪の降らない地域の方が、天然の雪を見たり、触れたりしたくて雪国に足を運んでいます。

そんな中、苗場山麓ジオパークが持つ雪の力を町内外に発信しようと3月9日(土)に川の展望台までスノーシュー(西洋かんじき)で行く、「雪散歩」を開催しました。

参加者は全員町外の方でスノーシューを履くのは初めて。当日は快晴の下、雪上を歩き動物の足跡を見たり、植物を観察したりと参加者はカメラを離す時間が無いほどでした。目的地の川の展望台に到着すると、苗場山麓ジオパークが持つ大地と自然の力を目の当たりにして、参加者は感動しきりでした。川の展望台ではコーヒーを片手に説明を聞き、大地と人が築いた眺めを堪能していました。

私たちが雪をこの地域の大切な資源と認識し、保全と活用をしていくことが次の時代に向けて重要なのではないのでしょうか。



新潟圏域ジオガイド交流会in糸魚川 レポート(ジオガイド 坪内恵理子)

3月22日(金)～23日(土)、新潟県糸魚川市で開催されたジオパーク意見交換会に参加しました。

初日の意見交換会では主に、地域住民の認知度を上げる取組について話し合いました。現在の取組として、「ガイド自身がツアーやイベントを企画・実践すること」「ガイド間の情報交換を密にすること」などが挙げられ、今後の課題として、これらを発信するためのSNS等の活用が挙げられました。

2日目は、フォッサマグナミュージアムと弁天岩を視察しました。ミュージアムでは、実際に石に触れてクイズに答えるものなどがあり、良く工夫されていると感じました。弁天岩はフォトスポットでもあるようで、若い観光客の訪問が印象的でした。駅直結のジオパルも含め、ジオパークに興味がなくとも楽しめる工夫が随所に見られました。まず「楽しいところ」と感じてもらうことが大切だと感じ、とても勉強になりました。





津南小学校 平成30年度の取り組み紹介

地域の魅力を紹介するカルタとパンフレット完成!

平成30年度、津南小学校では、3年生が総合学習において「行け!きらめきたんけんたい!発見!津南のたからもの」と題してジオパーク学習を展開しました。まずは、座学で苗場山麓ジオパークを知り、実際にジオサイトなどの現地に赴き、調べました。そして苗場山麓ジオパークのたからものの魅力をより多くの人に伝えようと「きらめき津南のたからものカルタ」を制作しました。これらは、展示され、保育園や小学校に配布されました。

6年生は、縄文時代の学習を行い、実際に本物の土器片や石器などを観察し、その観察所見をまとめ、土器づくりを体験しました。これらの学習を基盤とし

て津南町の歴史や自然、温泉、食べ物などを紹介するパンフレットを作成しました。そして、このパンフレットを大きく引き伸ばし、3月に開催された津南雪まつりにおいて津南の魅力を紹介するプレゼンテーションを行い、パンフレットも配布しました。このパンフレットは、津南町観光協会をはじめ各観光施設に設置し、配布しています。



6年生の作成したパンフレット



津南キッズ水サミット

4年生は、総合学習で津南の水について取り組みました。船津川と中津川について、pHとCODを使用した化学分析、川に棲む水生生物で判断する生物分析を行いました。座学も含めて5回の活動を通じイワナなど多くの生物を確認しました。3月8日(金)には「津南キッズ水サミット」と題し、「津南の水をPRしたい」「津南のきれいな水を残したい」をテーマに、活動のまとめとなる船津川と中津川の比較などとても素晴らしい発表が行われました。



ジオガイドで雪まつりに出店しました



快晴に恵まれた「つなん雪まつり」

苗場山麓ジオパークガイド部会では、来町の観光客に苗場山麓の魅力を情報発信したいと、無料提供食品・販売商品・写真パネル等を早朝より準備しました。

事前情報から観光客は総勢2,000人、ピーク時間の15時半から16時頃には約1,000人が商店街を散策する予定との事でした。情報通り大勢の人が訪れ、なめこ汁・お酒等のもてなしに大喜びでした。また、地元産の雪下人参・お米の販売も人気でほぼ完売状態でした。

情報発信コーナーで今回初めて展示した火焰型土器は、皆さん興味津々に手で触れて、写真に収め、喜んでいました。火焰型土器からジオサイトの写真パネルへと説明を進め、この地域一帯が大地のロマンを秘めた魅力いっぱいの地域であることをガイドは熱っぽく語りました。充実感に満ちた一日で観光客よりも満足した様子でした。

初出店!「さかえ雪ん子まつり」

今年は初めて栄村で開催された「さかえ雪ん子まつり」に出店しました。しかし、午前中はあいにくの小雨、午後は何とか持ち直しました。フォトコンテストの写真の掲示や、休憩コーナーを作り村の山でとれたクロモジのお茶や手作りケーキを提供しました。雪ん子まつりの運営によるクイズ企画の会場にもなり、多くの子供たちも訪れました。来年度はジオガイドでクイズを作るなどもっと主体的に関わっていきたいと考えています。



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

上倉和美さん



道満丸は仙当城の城主だった？（ガイド No. 7 上倉和美）

16世紀後半、越後との国境に近い北信濃は、上杉と武田の攻防最前線でした。上杉と武田の領有地は時により変動し、北信濃の氏族は上杉についたり武田についたり、両属したりして生き残りを図るものも少なくなかったようです。

「道満丸生存説」に大きくかわる市川氏もそうした氏族の一つです。道満丸は、上杉謙信の養子上杉景虎の長子で、謙信死後に起こった御館の乱に際し、上杉憲政とともに景勝方の武士に惨殺されたとされています。当時9歳でした。ですが、その道満丸が実は助けられて、仙当城にかくまわれていたのではないか、という新説があります。新潟県に住む月岡恵さんという方がその説を唱えています。

その① 箕作常慶院の口伝に、「かつて箕作常慶院は上杉の大切な人を預かり多額の養育費を得、それにより同寺は八カ寺の末寺を経営することができた。」とある。

その② 津南町の月岡家の伝承に、「月岡家の初代先祖は落ち武者として市川氏に助けられ、長野県栄村箕作の常慶院（市川氏の旧菩提寺）で育てられた。そのあと月岡の「アブラヤ」の娘を娶り、箕作常慶院の末寺である大龍院とともに、現在の津南町に移り住んだ。初代は「上杉謙信公身内市川傳七郎藤原照虎」と記録されている。これが道満丸ではないかと考えられている。」とある。

その③ 長野県立歴史館に寄託されている「月岡市川文書」の中の一部に「信州箕作セツ〇〇上ノ城主上杉駿河盛直玄」（〇〇は判読困難文字）とあり、セツ〇〇は「セツとう」である可能性がある。また、上杉駿河盛直玄は正史に見出すことができず、この人物が道満丸ではないかと考えている。

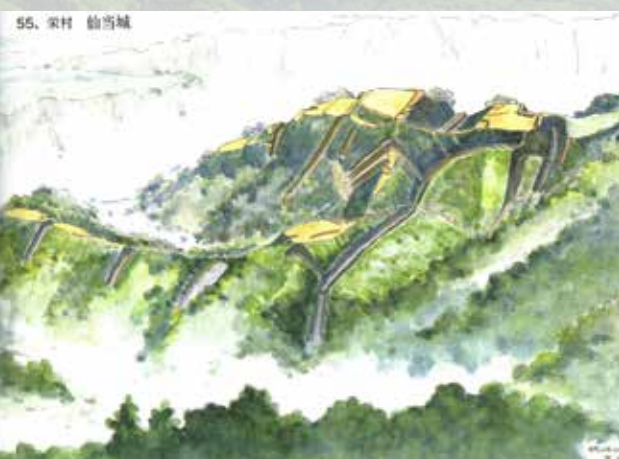
この3点により、道満丸が生きており、仙当城にかくまわれていたのではないかとということです。

仙当城は栄村月岡地区の千曲川右岸で川が大きく蛇行する所で大巻川と二の入沢川の間にそびえる尾根（標高460m）の末端部にあります。とてつもなく巨大な空堀を有する山城で、空堀に架かる土橋が又、この城の堅固さを物語っています。専門家は「こんな大きな山城は珍しい、文化財に指定されるべき一級品だ」と評価しています。

上杉、武田勢が、この地で戦を交わしていたこと、又、道満丸がこの地で育ち、栄村、津南町の歴史に登場するなんてとても誇らしい話です。そのようなことを想うと、もっとこの時代のことを知りたくなりました。私は歴史が苦手で、なかなか脳に入り込んでいかないのですが、この度「道満丸生存説」に出会い、テレビや雑誌情報、ジオパーク仲間の方々との語りの中でその時代背景が少しずつ分りはじめ、点と点が線で結ばれていく楽しさを感じています。仙当城は普通の体力をお持ちの方でしたら、ゆっくり歩いて30～40分程です。

500年前の当時の一コマを感じながら是非お尋ねください。ご連絡いただけたら一緒にします!!

参考文献 上田史談会 2018『魚沼』第36号



仙当城の図

宮坂武男 2014『縄張図・断面図・鳥瞰図で見る 信濃の山城と館 第8巻 水内・高井・補遺編』より



平成 30 年秋 仙当城にて



2018年度 学術研究奨励事業助成金採択者が決定しました

3月14日(木)に学術指導委員会を開催しました。委員会では、2018年度の学術研究奨励事業助成金採択者の研究内容の報告と2019年度の申し込み者の採択について協議しました。採択者については、表の通りです。

氏名(代表者)	所 属	研究の名称
竹 越 智	—	鳥甲火山発生期の地質学的研究
涌井 泰二	苗場山麓の自然を考える会	苗場山麓の池沼における水辺の昆虫及び水生植物の研究
高 橋 翼	千葉大学融合理工学府	苗場山麓の彩雪現象を引き起こす雪氷藻類に関する研究
吉田 邦夫	東京大学総合研究博物館	縄文のおらほのごつつおどつけなん-縄文時代の津南郷の食景観を探る-
三戸 智也	茅ヶ崎市教育委員会	苗場山麓における縄文土器製作技術の検討
一戸 信哉	敬和学園大学	苗場山麓ジオパーク地域における記憶の継承:樽田集落を中心に



突撃しよう!となりのジオ便り～立山黒部ジオパークからこんにちは～



連続落差日本一(350m) 称名滝

保っています。また、一部は海底からも湧水し、多くの魚介を育む栄養塩を富山湾に供給しています。このように急峻な地形は立山黒部エリア独特の景観と風土を生み出しているのです。

立山黒部ジオパークには紹介したい見所がたくさんあります。北アルプス周辺の立山黒部アルペンルートや黒部峡谷などは、公共交通機関を使って標高の高い場所まで気軽にアクセスでき、自然が作った雄大な風景を楽しむことができます。富山湾周辺では、ブリ、ベニズワイガニ、シロエビ、バイ貝、カキなど、深海から沿岸までに生息するいろいろな種類の新鮮な海の幸を楽しむことができます。春になると、ホタルイカが産卵のために沿岸近くまでやってきます。沿岸でホタルイカが見られるのは世界でも富山湾だけで、その神秘的な光はここでしか見ることができない光景です。また、海岸や市街地などから見る屏風のように並びたつ北アルプスの山々とそのすそ野に広がる扇状地の風景は大変迫力があります。

他にもご紹介したい場所がありますが、なによりも実際に来ていただき、体感していただくのが一番だと思いますので、皆さんぜひ遊びにきてください。

立山黒部ジオパークは、富山県東部の9市町村(富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町)と富山湾の一部にまたがる広いエリアをもつジオパークで、エリアは標高3,000m級の山々が連なる北アルプスから富山湾と、山岳地帯から海まで広がっています。

立山黒部ジオパークの大地には、大陸同士の衝突、大陸時代の生き物、日本海の誕生、北アルプスの誕生など38億年～現在にかけての大地の歴史が残されています。そしてこの地域の最大の特徴は世界的にも珍しい大変急峻な地形です。地形の急峻さは、北アルプスの山々から富山湾まで続き、富山湾は海岸から沖に向かって急に深くなり、最も深い部分は水深1,000mを越えています。そのため、北アルプスから富山湾まで水平距離約50kmの間の高低差はなんと4,000mになります。また、大陸からの冷たい季節風は日本海で水分を補給し、北アルプスに大量の雪を降らせます。この大量の雪により山岳部には氷河が残り、雪解け水は急峻な大地を流れ下って下流に豊富な水と大量の土砂をもたらす、海まで届く広大な扇状地が形成されています。その扇状地の末端には湧水群が広がり、地中に埋まった埋没林を



呉羽山展望台から望む夕陽の立山連峰